

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 2月 29日

事業所名 ライフエナジーチェェコリ

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	利用人数が多い曜日は活動内容によっては、十分なスペース確保が難しい為部屋を分けて活動するなど工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	7	1	全ての利用者の行動を把握できるように状況に応じ配置数を決めている。送迎で職員が手薄になる時間帯は特に配慮している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	子どもが活動する部屋は段差はなく、玄関には手すりが設けられている。ドアノブや鍵の形状など工夫すればさらに使いやすくなりそうな場所もある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	職員間で話し合う時間がしっかり設けられている。目標や課題を確認しその支援内容を話し合ったり評価や振り返りをしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		保護者アンケートを実施している。集計後はその結果や意見を職員全体で共有し、改善点や対策を考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	玄関入り口に提示している。集計結果をまとめ、保護者へ配布している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8	実施していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		知識や技術を身に付けるための事業所内の委員会や研修を毎月実施している。外部の研修に定期的に参加できる機会が設けられている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		来所または電話でのアセスメントを行い、利用者や保護者のニーズや家庭の様子を伺い計画書を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	発達検査や知能検査など専門的に評価されたものや関係機関からの情報を収集し支援に反映している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		児発管を中心に職員の意見を取り入れながら立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		季節ごとの行事や制作、トレーニング等を取り入れながら楽しく参加できるプログラムを作成している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		時間配分を考慮し、その中で楽しく参加できる内容にしている。長期休暇では社会的ルールも学べる活動を考えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		個々で必要とされる支援課題に考慮し、環境設定については状況や内容、本人の特性によって個別と集団どちらが適切かを考え計画している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝のミーティングで確認している。担当職員には具体的な活動内容と支援方法を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		終礼にその日の振り返りを行い支援に対しての評価や反省、情報共有を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		療育記録をとっている。その日の様子を項目ごとに記載することで見直しや振り返りができ改善にもつなげられている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		目標や課題の達成状況を職員間で話し合い更に担当職員の評価をもとに判断を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8		ガイドライン等を参考にしながら固定化しない支援内容になるよう考えている。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児発管が参画。子ども一人ひとりをしっかりと把握する為、職員間の情報共有をしっかりと行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		担当者会議等に参加することで各機関の情報を得ることができている。その他の情報は保護者の方かお願いしたり送迎時に学校側から伺っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	3	該当児がいない。受け入れる際は、緊急時の連絡体制や対応の確認は重要と考えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1	担当者会議等に参加し、利用者の様子や支援状況を伝えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	会議等には積極的に参加し、支援状況を伝えている。直接難しい場合は相談専門員にお願いし、情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	研修内容についてしかるべき職員が参加し、職員間で共有している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	4	交流の場がなく難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	7	機会があれば、積極的に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		普段から意見や相談しやすい関係づくりを心掛けている。定期的なモニタリングやアセスメントを実施し理解を得る機会を設けている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	1	おたよりに毎回掲載し保護者全体へ発信している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に、全ての内容を含め利用者についてご家族から話を伺いながら丁寧に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		保護者の方の思いを汲み取りながら解決に向けた助言と具体的支援対策を伝えられるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8	実施していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		迅速に対応できるようにしている。その内容については職員間で共有し、解決に向けた改善策や再発防止の具体的内容を話し合っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		「チェックリダより」を定期的に発行し、事務所内での活動の様子や予定など必要な情報を発信している。
	35	個人情報に十分注意している	8		個人情報のある重要書類等に関しては施錠し保管。又はシュレッダー処理を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		様々なツールを利用し個々に合った意思疎通ができるようにしている。保護者の方には対話、お手紙、電話など伝えやすい方法でお願いしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8	実施は難しい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		マニュアルをまとめたものを保護者へ配布し確認してもらっている。職員間では研修の機会を設け、マニュアルの確認や訓練を行なっている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		毎月実施している。火災、水害、防犯などそれぞれに備え訓練を実施している。実際に避難場所への避難も行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		虐待防止委員会・研修を定期的に行い、虐待防止のための意識向上に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	3	「身体拘束は行わない」という事業所の規定がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		アレルギーのある子については食事やおやつに関する環境についての確認を行い、おやつ提供に関しては十分な確認をし、適切な対応ができるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		迅速にヒヤリハットを作成し、職員間で共有し、振り返りを行いながら再発防止のための対策を話し合っている。